

第3回 地域コミュニティ活性化に関する懇談会 会議要旨

1 会議名称

地域コミュニティ活性化に関する懇談会

2 開催日時

令和3年10月4日（月） 14:00～15:50

3 開催場所

広島市議会議事堂3階第1委員会室

4 出席委員等

(1) 委員氏名

山川 肖美委員（座長）、平尾 順平委員、山田 知子委員、打越 勲委員、
大浦 史郎委員、越智 正紀委員、金月 節男委員、久保田 詳三委員、
西田 志都枝委員、濱本 康男委員、坊 聡彦委員、牛草 賢二委員、神谷 恵司委員、
近藤 聿興委員、杉川 綾委員、高橋 博委員、中村 一彦委員

(2) 事務局

企画総務局 企画総務局長、地域活性化調整部長、地域活性化推進課長
コミュニティ再生課長、地域コミュニティ活性化担当課長

（関係部局等）

危機管理室 災害予防課長

市民局 市民活動推進課課長補佐、生涯学習課主査、スポーツ振興課長

健康福祉局 地域共生社会推進課長、高齢福祉課長

中区 地域起こし推進課長

教育委員会 育成課長

5 議題（公開）

(1) 現状と課題を踏まえた地域コミュニティにおける活動事例について

6 傍聴人の人数

6人

7 会議資料名

- (1) 現状と課題を踏まえた地域コミュニティにおける活動事例
- (2) 第2回地域コミュニティ活性化に関する懇談会で挙げられた主な視点
- (3) 第2回地域コミュニティ活性化に関する懇談会会議要旨
- (4) 第2回地域コミュニティ活性化に関する懇談会に係る追加意見要旨

8 各委員の発言の要旨

- (1) 現状と課題を踏まえた地域コミュニティにおける活動事例について

(山川座長)

- ・ 本日の会議では、それぞれの活動事例について参考にしていただきながら、各課題区分について、各委員の地域等で実際に抱えている課題や、その課題に対する今後の取組方針、あるいは、可能と思われる取組についての投げ掛けでもよいので、現在の課題意識について御意見をいただきたい。
- ・ それでは、課題区分1の「団体運営」についてから事務局から説明をお願いします。

(事務局)

～課題区分1「団体運営」の説明～

(山川座長)

- ・ 第2回懇談会で出された御意見が参考資料1に整理されている。これに加え、前回と今回で示された活動事例も参考にしつつ、まだ出ていない視点などを含めて、団体運営についての課題、あるいは今後の方向性について御意見をいただきたい。

(久保田委員)

- ・ 以前、町内会の課題として、加入率の低下、担い手不足を挙げたが、加入率を改善することで全てがよくなるわけではないため、加入率の低下、担い手不足は町内会の置かれている状況であり課題ではないと考えを改めた。
- ・ 町内会の課題は、住民の自治意識の低下、いわゆる自分たちのまちは自分たちで守っていくとか、人間は一人では生きていけないというような考えが少なくなったことであり、それにより加入率の低下や担い手不足が生じていると思う。
- ・ 広島市が政令市を目指した時に、当時の市長になぜ政令市を目指すのか聞いたところ、ワンランクアップの市民をつくるためと話していた。それを聞いて、政令市とはそういう意識なのだと感心をした。まさにワンランクアップの市民を育てることが自治意識の向上につながる。一人一人が自分たちのまちは自分たちで守るという意識をどれだけ高めていくかということが1番の課題ではないかと思った。
- ・ いくらい事業を紹介しても、結局その役員がやる気が無ければどうにもならないし、

それが加入率の増加には決してつながらない。一人一人に、自分たちは一人では生きていけないと思ってもらうような一つの方向付けが、団体の活性化において非常に大事ではないかと感じた。

(山川座長)

- ・今の話は全ての課題を横断することだと思うが、組織より人に焦点を当てて、その課題について解決してはどうかということを提起いただいたものだと思う。

(西田委員)

- ・前回話した内容に関して一点伝えておきたい。参考資料1の団体運営に関する視点の中に、「地域における連携や団体の横串の組織は重要である」とあり、「横串」という言葉が出ているが、この「横串」に対する意見を聞く中で、自分の考えている「横串」と皆さんの考えているものが少し違う印象を受けている。
- ・住民一人一人がどう思うかというところがまちづくりにおいては1番大事であり、自分の地区では、「横串」というのは、縦組織が横に連携しただけということではなく、一人一人の住民の掘り起こしと、一人一人がいろんな思いを持ってくださるということの要請を受けて行っているのが「横串」であると考えて取り組んでいる。
- ・具体的には、社協は19団体から構成されているが、各団体から1～2人、七つのネットワークに出てきてもらうことにしており、毎年100名近い人が出てくる。
- ・その中には社協の役員もいるが、1人につき1～2つのネットワークという決まりがあるため、50～60人くらい新たな人が毎年参加するようになっている。
- ・このネットワークが、年4回の会議の中で、思うこと、社協が行っていること、自分たちには何ができるかということをつたひたすら挙げていくだけで、意見は取り上げるが、それに対してお金を出して活動してもらうということではない。
- ・こうした意見を集約し、また広げていくという良い場が15年ぐらい続いており、この中から人が育っている。人を育てていくことが基本でないと、後継者もいなくなるので、まず人を育てるための「横串」である。
- ・何の制限もなくいろんなことが言えること、社協に関わるハードルを下げていくことが15年続いた結果、早稲田地区では、担い手不足は解消されている。
- ・そのため、各地域が自らこれから先どうあるべきかと考えた上で、活動事例について、地域性を踏まえながら取り入れたり、参考にしていただくのがよいと思う。

(山川座長)

- ・前回の課題区分1の中の「横串の地域団体の連携体制」は早稲田地区の事例であったが、地域の実態が伝え切れていない部分もあったと思う。
- ・今いただいた話のように、もっと裾野を広げたり、あるいはその裾野を広げていく中

で意見を表明できる場、共有できる場から人が育つということは納得できる。

- ・今の話を聞いて、各課題区分の間でも関連する部分はあるため、一通り活動事例を見て、御意見いただいた方がよいと感じた。「団体運営」についてこれで終わりではないが、事務局から次の活動事例について説明いただきたい。

(事務局)

～課題区分2「活動の担い手」の説明～

(山川座長)

- ・一旦、ここで説明を切っていただく。
- ・この課題区分2「活動の担い手」に関して、久保田委員から、住民の自治意識の醸成について、西田委員から、一人一人の住民の掘り起こしの話があり共通しているところがあった。
- ・いずれも、この課題区分に関するものだと思う。活動の担い手という時、役員の担い手と活動の担い手があり、どちらかだけに集中するとどちらかが難しいなどあると思うが、担い手について今お持ちの課題意識を紹介いただきたい。

(杉川議員)

- ・2-⑩は当会の事例であるが、この間、1回目と2回目のオンライン上の討論会が終わったところである。
- ・先ほど自治会の問題について、単純に加入者が減っているということではなく、地域への参画意識や自治意識の低下という話が出たが、今回の討論会に実際参加された方からはしっかりと意見が出ており、地域に対して何かしたいと関心を抱いている方は一定数いると感じた。
- ・自分たちの日常生活の中で必要性を感じるというか、住んでいる地域であればいい地域であってほしいと感じているはずで、それを今後、地域コミュニティを再生していく中でどう救い上げるかということだと思う。
- ・話に聞いた範囲であるが、一昔前の自治会であれば、ゴミ出しの日や場所などについては自治会に聞かなければ分からなかった時代があり、その地域に住み始めたら、必ず自治会に入らないとそこで生活ができない状況があった。
- ・それらは今やインターネットなどに全て取って変わられているが、地域コミュニティを再生するという時、自治会・町内会に関わらないと生活が不便になるような、逆に言うとそれぐらいの役割を自治会が持ち始めると、皆に関心を持ってもらえるし、自治会が維持されないと自分たちの生活も不便になると感じられるというところで、自治意識が上がるのではないかとということを今回のプロジェクトの議論で感じた。

(近藤委員)

- ・ 前回の活動事例の2-⑨「マンションが多い地区における町内会の活性化に向けて」で、マンション町内会に対してどういう方法で対応していけば活性化ができるか、例えば、自分の活動している中区はほとんどマンション世帯で、そのような状況で、どうすれば活性化できるかという、具体的な例があれば教えていただきたい。あるいは、取組の提案をしていただきたい。この活動事例だけ示しては意味がないと思う。
- ・ 自分でも以前からいろいろ考えているが、まず、町内会加入を勧める条例を作ってはどうかと思う。罰則規定を設けると違法であると思うのでそれは必要ない。その上で、市民税に町内会費分を200円追加して、年1回、各町内会に分配してはどうか。そうすれば、全員町内会へ加入するのではないかと考えたりしている。いずれにしても、なかなか名案がない。
- ・ 議会の議決も必要であり難しいと思うし、あくまで個人的な案だが、今は、町内会への加入が任意なので、そういう条例があれば、マンション世帯の方に対しても我々も取り組みやすい。特に、中区は非常に加入率が悪い。基町だけは100%だが、他の地区は2割、3割という状態である。
- ・ 江波地区はどうか。

(大浦委員)

- ・ マンションが多いところは、江波南二丁目であるが、1,000世帯くらいあって、加入率は九十数パーセントだと思う。

(近藤委員)

- ・ マンション全ての世帯で一括で入ってもらえればよいのだが難しい。販売会社ともいろいろ協議するがやはり難しい。

(坊委員)

- ・ 話を聞いていると、社協と自治会・町内会との関係が少し違うので、判断しにくいのではないかと思う。
- ・ 社協は入会あるいは脱退はなくて、活動するかどうかは別だが、地域住民が全員会員で、一方、似たような団体として町内会・自治会がある。住民としては町内会・自治会活動があるのに、社協の活動もいろいろやってほしいと言われる。二つの団体がうまくかみ合っていないと、今のような問題が起こってくるのだと思う。
- ・ そのため、その辺りをうまくすみ分けして団体が運営していけば、ある程度協働関係ができてくるし、例えば自分の地区ではいろいろな活動をする中で、活動に参加したという方も出てきている。その活動のリーダーを作っていくのは必要だと思う。
- ・ 中には町内会と社協がいがみあっているところもあるように聞いているので、その辺

りの関係をうまく整理しないとイケないのではないかなと思う。

(山川座長)

- ・組織運営の問題と担い手の問題など、本日はそういったものを全部出していただき、次回以降どういうふうにピースを組んでいくかということ話を話していきたいと考えている。

(大浦委員)

- ・第2回懇談会で、イベントはもうできないというような話になったが、そうすると、町内会はもう成り立たない。小規模でもイベントをすることが、人と人とのつながり、いわゆる絆を生むのではないかなと思う。
- ・活動事例の中で、地域活動を核とした地域運営として、地域活動協議会があるが、江波地区では、地域団体などで「南の風の街 EBAを創る会」という団体を作っている。その中には社協も町内会も子ども会、民生委員など多くの団体が入っている。
- ・そういう中で30年続くイベントを2月に行っている。私はその事務局長であり、そういう意味でここにいるのかもしれないが、地域活動協議会はまさしく我々が行っていることである。
- ・担い手となると、存在するおよそ60団体について、それぞれ1人リーダーがおり、また、イベントでは、各団体から10人ずつ出てきて600人ぐらいの担い手となる。ほとんどの団体がそういった組織になっている。
- ・今年も10月に事務局会議を開く予定であり、コロナの影響で、中止か実行かともめているが、イベントを無くすといけないと感じている。ウィズコロナでどういうふうに戦ってイベントをしていくかしかないのではないかなと思う。

(山川座長)

- ・第2回懇談会で、イベントという言葉から、いわゆる打ち上げ花火的な、一発上げて終わりというようなイメージを持って、今はもうイベント中心の時代ではないのではないかという意見が多々出たと思うが、イベントには文化があり、それを行うまでのプロセスが非常に重要だということだと思う。

(大浦委員)

- ・全てがイベントだと思う。

(山川座長)

- ・その辺りは、資料の文字による説明に加えリモート会議ということで理解がし難い部分があったと思う。

(金月委員)

- ・子育て世代にいかに参画してもらうかについての参考として、自分の経験を挙げたい。
- ・自分の町内会に川があり、そばにあるごみステーションから、塵取りと箒がなくなることがあった。民生委員から私に報告があり、置き直してもまた無くなるといったことだった。その後、小学校高学年の3人ぐらいが面白がって川に流していたことが分かった。そこで私がその3人を予想するとそのとおりだった。
- ・その後、3人の両親と話すことになったが、なぜ自分たちの子どもだと分かったのかと聞かれ、申し訳ないが、あなた方の平素の姿勢を見ていたら分かると伝えた。
- ・地域でいろんなイベントをすると、子ども達は楽しみに参加しているが、両親は一切地域の世話をしていないし、平素からあまり挨拶をされないという話をすると、申し訳なかったと謝罪された。
- ・どうすればよいかと言われたため、今後、町内会の役員についてもらうようお願いした。今では積極的に地域の世話をさせていただいており、こういうことははっきり言った方がいいと感じた。何か参考になればと思う。

(山川座長)

- ・まさにそういうことの積み重ねが大事だと思う。

(久保田委員)

- ・坊委員から町内会と社協のすみ分けの話があったが、広島市は各区によって立ち位置が若干違っているところが非常に難しい。
- ・例えば佐伯区の場合、町内会があり、町内会連合会があり、各種団体があり、各種団体の中に社協があるという考え方である。町内会が町内会費を集めて、それを町内会連合会に納め、その上納金を各種団体に割り振るという立ち位置である。
- ・そのため、上下関係でいえば、町内会連合会は上にあって、そして各団体があるという考え方であり、同じレベルではない。
- ・もめることは確かにあるが、それは、お金を使う方とお金を渡すものの違いから生じるもので、お金を使う側にしっかり報告してもらいたい、そういう形がなかなかできないため、どうなっているのかということはある。
- ・多分、安佐北区も似たようなことがあると思うが、他の区では町内会連合会はそんなに大きな存在ではないと思う。そのため、そこの整理が必要で、社協と町内会との関係はなかなか説明しきれない部分がある。

(山川座長)

- ・実は自分も福岡から引っ越してきたが、1番分わかりにくかったのが社協の存在であった。福岡では社協がそれほど機能しないというところがあり、その辺りは広島市の独自のものだと思う。
- ・各委員の地域でそれらが連携していることについては、社協が町内会に包括されている場合、横並びの場合それぞれあると思うが、その部分の課題があるという認識は共通ということでよいか。

(大浦委員)

- ・自分の江波地域は学区と地域という住み分けである。学区だけでまとまるのが望ましいが、地域ということで学区ではないところも入ってきている。
- ・町内会長になった時点で社協についての認識は無かったし、おそらく、町民の方も社協とは何だろうという認識だと思う。全てが町内会という認識だと思う。
- ・江波の人選の場合、社協の会長は連合町内会から選ぶが、町のイベントなどは社協がイニシアティブをとっていく。そして社協のメンバーには町内会のメンバーと一緒に入っている。
- ・そのため、以前は社協の会長と連合町内会長は一緒だった。社協の会長と連合町内会長、自主防災連合会長が一緒になっている地域は多いと思う。そういう並びが多いと思う。ただ、住民には社協の認識はないと思う。

(山川座長)

- ・地縁的な組織という範囲で複数の組織があるため、その辺りの整理をするということが一つ、ただ今回、地縁組織以外の組織が地域コミュニティ活性化に関わってこられる可能性を残そうということだと思うので、その辺りも含めて御意見いただきたいがどうか。

(高橋委員)

- ・地域における気付きを1つと、いくつかの提案をさせていただく。
- ・昨日、安佐南区の長束地区で、川掃除を自治会で行った。朝8時半から川の中に入り、草やゴミを取るなどしていたところ、父親と小さな2人の子が草や川に落ちているものを土嚢袋に集めている姿に触れた。
- ・小さな子どもが掃除をするという、地域社会に参加するという姿がとてもうれしく感じたとし、こういう形が広まってほしいと思った。
- ・現在の社会では、地域活動に出てくるのはほとんど父母で、子どもが出てくること、組織的にそういう運営が行われている姿はあまり見ない。
- ・幼児、小学校、中学校と上に行けば行くほど、他のことで忙しくなって参加しにくく

なっているのだと思うが、小さい時から地域社会に関わるというスタイルを広島市が今後奨励していければ、将来は明るいのではないかと思った。

- ・また提案だが、これまでも話してきたが、人は社会的存在で、誰1人として人のお世話にならないで、生きてこられた人はいないはずである。ただ、社会人になって、社会で活躍するようになるとそれは忘れ、人の世話にならなくても生きていけるとか、煩わしいことには関わりたくないという人がだんだん増えていく。
- ・高齢者でも、民生委員が来た時に、自分は元気なので帰ってくれとか、町内会に入っ
て一緒に地域活動に参加することを働きかけても煩わしいことはやりたくないと言
う。
- ・現在は多様化の時代なのでいろいろな考え方の人がいる。弱体化した既存の地域コ
ミュニティを強化する事は最も必要であるが、それができても、既存のコミュニティに
どうしても捉われて、参加したくない人は参加しないと思う。
- ・そういう方たちを強引に参加させようとしても無理があるので、トータルでコミュ
ニティ全体を良くしていくという考え方に立つと、必ずしも既存のコミュニティに何と
か強引に、もう1回昔のように戻すということに、エネルギーを無駄に費やす必要は
ないのではないかと思う。
- ・そういう意味で、人は1人で生きることにはできないという原点に戻り、地味なよう
だが、多くの人々に対する気づきの為の、啓発・啓蒙・アナウンスを全市的に行う必要
があると思う。
- ・二つ目は、人の生活の基盤は毎日暮らす地域社会のはずだが、仕事していても、基本
は日々住んでいる地域社会が基盤である。その地域社会をより良くするため、地域活
動に何か一つ参加してもらえば、地域社会との接点が増えて、地域活動に関わる人が
増えていくと思う。
- ・そういう意味で提案だが、企業やあらゆる組織あるいは市民に地域活動、活性化活動
を強化してもらおうという意味で、一年の一定日を地域共生社会の日にしてはどうか。
- ・何をするかは地域に決めてもらえばいいのかもしれない。そうして各地域で行った取
組や問題点を共有して、いいところがあれば参考にする。いろいろ工夫、アイデアも
出てくるのではないかと思うので、一つのアイデアというか方向づけではないかと感
じる。
- ・三つ目は、広島市独自の高齢者いきいき活動ポイントについて、最近かなりの高齢者
が関わっているが、まだまだ十分でないので、この人気のある高齢者いきいき活動ポ
イントの拡充を提案したい。
- ・現在100ポイントで1万円が上限となっているが、地域コミュニティの活性化貢献
ポイントとして、地域コミュニティの活性化に関わるリーダーあるいはボランティア
に活動ポイントをもう少し拡充して、地域活動に貢献される方に還元してはどうか。
- ・最後に、市行政への苦情ではないが、情報発信がまだまだ不十分だと思うので、有益

情報をしっかり発信し、地域社会が共有できるようにしてほしい。他の地区で行われている好取組や問題解決策について、普通、地域はほとんどのことを知らないが、それは共有されてないから、発信がしっかりされてないからだと思う。

- ・今回の地域コミュニティ活性化ビジョンができればいろいろなものがまとまるので、それをしっかりと全市が共有できるように発信する、広島市の情報の発信力を是非強化していただきたい。

(山川座長)

- ・幅広い意見をいただいたので、やはり事例の課題区分の残り2つを先に事務局から説明してもらい、その後フリーディスカッションという形にしたい。その上で今の高橋委員の意見を含めて、御議論いただければと思う。

(事務局)

～課題区分4「活動内容」及び課題区分5「行政との関係性」の説明～

(山川座長)

- ・ここまで出てきていなかった視点として、ICTをどう使うかという視点、それから安定した財源確保。また、町内会の中の組織の話はあったが、行政等の関係性・連携、拠点ということについては、新たな視点の提案をいただいたのではないかと思います。
- ・ただ、たくさん方法はあるが、本質的に議論しないといけないことは何なのかというところに立ち返ると、久保田委員、西田委員からあった、住民の意識の醸成や、1人1人のどのように育み、巻き込んでいくかという点や組織の問題。
- ・杉川委員の意見にあった、なくてはならない町内会の機能が何かという、町内会の再定義も考えていく必要があるのではないかと思いますという点が、議論いただいた中で集約されていくのではないかと思います。
- ・私の方で勝手に集約してしまったが、それに関連してでも、あるいはそれぞれ皆さんがお持ちの問題意識の中で出てきていない視点があると思うので、そこについて意見をお願いしたい。

(坊委員)

- ・今いろいろな事例を示してもらったが、行政にもお願いをしていきたいことがある。
- ・私は安佐北区の代表で来ているが、合併する前は町役場が町内会・自治会をある程度利用し、町によっては会長を嘱託として任命し、行政の下部組織として使っていた。
- ・ところが合併する際には、そういった制度は広島市にないということで切り捨てられ、そのため単独で町内会・自治会を運営する形でやってきた。
- ・最初は区社協・地区社協がなかったので、町内会・自治会中心に様々なことをやってい

たが、やがて区社協・地区社協ができてきて、行政もそういった組織をつくるように指導した。

- ・しかし回覧、共同募金、日赤の社資などのお願いは町内会・自治会にくるため、行政側は町内会・自治会を都合よく使っている気がする。
- ・その辺りを行政側もコミュニティ活性化について議論する前に、ある程度整理しないと上手くいかないのではないかなと思う。
- ・地区社協に対する50万円の事業費助成制度が作られたが、降って湧いたような地域もあるので、その辺りを久保田委員が言われたように、地域性、都心、周辺部、町内会があってもあまり機能していない、中山間地においては昔からの伝統・絆を大事にしているといった様々な特性を行政が整理して考えておかないと、この場で議論しても行政側が仮にそれを崩していくようなことがあれば何の意味もないので、その点は行政に強く要求していきたいと思う。

(山川座長)

- ・この点は事務局にお願いしたいと思う。

(平尾委員)

- ・ポイントとしては議論の整理という話になると思うが、私も懇談会の冒頭で久保田委員が言われた、組織の維持と地域の維持は別の文脈ではないかという点にすごく賛同というか、気づきを与えていただいたと思っている。
- ・地域を維持するための議論と地域を維持している組織を維持するための議論は実は違う話だと思う。
- ・先ほどあった、町内会の加入率が100%になれば、その地域は良い地域になるかどうかということも、おそらくそれだけの要素ではないと思う中で、第1回の際に私たちのNPOのメンバーが地域に対して興味が薄くなっていっていると議事録が残ってしまったが、正確には地域に対する意識は高まっているが、地域を維持する組織に入ることの意識が低くなっているということで、この辺りの議論が一緒くたになってしまっている。
- ・先ほど坊委員が言われた、社協と町内会、行政との関係あたりも含めて、町内会を良くする、町内会をどうしていくかという話と、地域自体を良くしていく、盛り上げる、維持していくという話が行ったり来たりになっている気がするので、整理して進めないといけないと思っている。
- ・事例集の位置づけも、おそらく地域自体をよくするための事例としてこの事例集が存在しているのではないかなと思うので、もう少しここを区別し、組織の話と地域自体の話のどちらの議論をしているかということを分けて考えないと、新しい主体が生まれてくることは難しいのではないかなと感じた。

(山川座長)

- ・とても重要な御指摘だったと思う。言われたとおりに混ざっていた。
- ・杉川委員が言われたのは地域の維持というところのお話だったと思う。

(山田委員)

- ・平尾委員から事例集の位置づけというコメントがあった。とても大事なことだと思う。
- ・これほどバリエーション豊かで習熟度も違う事例が紹介されている中で、事例なので、いろいろ有効なポイントをチョイスして応用できたらいいと思う。だがその一方で、次回以降議論される、広島市が目指す地域コミュニティの一つの姿に、この多様な事例をどのように集約していくのかという点が1番気になっている
- ・その辺りの段階的な作業はとても難しいと思うが、そのプロセスを判りやすく明確にしないと、結局はどうしたいのか、視点が散漫となり何を議論しているのかわからない。
- ・前会議で、私は地域組織の運営についてあれこれと申し上げたが、財源を一本化した事例を出していただき、非常にありがたいと思っている。だが冒頭に久保田委員が言われた、住民の自治意識の醸成や主体性の形成の辺りが最終目的だとするならば、この財源のあり方と主体形成との関連性を二つの側面からの見方があるように思う。
- ・一つ目はまず財源の流れである。今まで行政から各住民組織に縦割りで個別的にばらばらに配分されていた財源が一本化され、一つの地域協議会組織の中で調整され配分されることになる。これは一本化されることにより何が生まれてくるかというところが重要で、これは組織メンバーが組織運営上、自らマネジメントできるということに他ならない。
- ・マネジメントすることにより、地域のまちづくりの代表格である組織が、自分たちの裁量でカネとヒトを融通しながら適宜対応していけることになり、住民主体の形成がステップアップされていくと思う。そして主体形成と同時に住民自治意識の醸成にも繋がることになる。
- ・2つ目は自主財源確保の問題である。前回の懇談会の中でも多くの現場の委員からも、自主財源に困っているという話をされていた。大きな課題かと思う。
- ・自主財源は助成金のあり方というところで片付けてはいけない課題である。行政からの補助金をどのように組織へ配分し、どのように使途するかという先に申し上げた1番目の視点とあわせて重要な点は、補助金以外にどのように自主財源確保を試みるかという点である。先進的な事例の中には組織が法人化し、例えば公民館や福祉施設のような公共施設を指定管理者として請け負って管理しており、そこでユニークな地域課題に沿った自主事業をしながら自主財源を確保している事例が多くある。また中山間地域等では、コミュニティビジネスを始めて、それが多様な人や団体を巻き込み、

ビジネスの楽しさ・経済的な効果を産んでいるという事例もある。

- ・これは先のマネジメントというキーワードに加えて、もう一つのキーワードは継続性のある自律的組織というところだと思う。
- ・こうした多くの要素が、既に挙げられている多様な事例から抽出されるという作業の上に、広島市が目指すモデルとなる組織が今後提示されることが望ましい。事例紹介からモデル提示までのプロセスがとても重要かと思う。

(山川座長)

- ・どのような姿を目指すのかということについて、議論すべきだと思っており、そのヒントとして事例集を集めていただいた。
- ・だが、おそらく事例集を集める視点が、実はどのような姿を目指すのかということと関連しているという議論をしっかりとしないまま、事例集が提示された形になっているので、いただいた意見から、このような視点というところを次回は整理をして、その上で、必要であれば事例をそれに足していき、マネジメントというヒントもいただいたので、そのあたりのキーワードもしっかり整理をしていきたいと思う。

(金月委員)

- ・先ほど坊委員、山田委員から指定管理者の話があったが、私たちが地域活動をしているのに活動拠点の問題がある。
- ・運動公園と福祉センターの管理者が違うのはわかる。ただ安芸区の中に幾つか福祉施設があるが、その施設によって管理者が違っていると区社協との事務局会議などで不都合な場合がある。
- ・そこで要望というか、わからなくて申し上げるが、できれば安芸区の福祉施設を一括して指定管理者を決めることはできないのか。御検討をお願いしたい。
- ・福祉施設の休館日について、祝祭日には開館、その翌日が休館というルールになっており、市の条例か何かの関係していると思うが、できれば休館日を統一していただいて、祝祭日は休館、平日は開館とするのが我々としては便利だと思う。これはお願いである。

(山川座長)

- ・経営となれば様々な視点が出てくると思う。
- ・限られた時間になるので、御発言いただいてない方で御発言をお願いしたい。

(牛草委員)

- ・先ほど拠点や指定管理の話があった。我々の団体でも指定管理をいくつか行っているが、地域はばらばらである。

- ・本当は地域の拠点として使用したいが、参加費を取るものは事業ができないなど様々な利用制限があり、地域の方や地域のNPOも使いにくいという状況がある。
- ・その施設を拠点にしていくという思いで、先ほど意見があった一括した指定管理なども考えていかなければ、指定管理者の内容も考慮はされるが、金額が重視され決まってしまうのはもったいないし、そこを拠点にするのが一番早いと感じた。
- ・今日の議論で、地域の存続とそこを支えている団体の存続は違うという話があり、今回議論していく中で一番重要なポイントではないかと思うので、ぜひ整理し、また自身も頭を整理して議論に加わっていききたいと思う。

(濱本委員)

- ・先ほどの平尾委員の発言を聞いていて全く同感した。
- ・事例2-⑩の活動の担い手に関連して、我々が地域活動を普段行う中で、担い手や役員のなり手に困る、あるいは町内会の加入率が上がらないということで困ることがあるが、結局我々がやっていることが住民のニーズに沿っているのか、実際にわかってやっているのかということを感じさせられることがある。
- ・事例の中で住民にアンケートを取ったというものがあつた。自身の地域でも10数年前に地域の福祉プランを作った際に全世帯にアンケートを実施したが、それからかなり時間が経過しており、結局今実施しているのはその当時のニーズに沿って作ったプランをなぞるものになっている。現在のニーズに沿っているかというのはもう確証がない。
- ・アンケートは有効な一つの方法だと思うが、結局地域課題を正確に掴んでいなければ、何をやっても住民の心に響かないし、活動の担い手、担い手になって役員をするという方にも説得力がない。
- ・やはり出発点は地域のニーズを正確に掴むこと、そこがスタートラインだと思う。
- ・ニーズの掴み方は様々な手法があると思う。アンケートもその一つだと思う。
- ・また地域にはいろんな人材、我々が知らない人材がたくさんいると思うが、その人たちと出会う場が作れていない。イベントはその大きな場だったと思うが、それが今はなかなか機会として利用できていない。新型コロナウイルスの影響が収まり、イベントができるようになればその場も活用できる状況になると思う。
- ・地域の人材を上手く掘り起こすような仕掛けをイベント以外で何か作りたいし、欲しいと、とても思う。
- ・我々が掴めていないだけで、地域には人材・有志がいると思う。そこを上手く掴めれば好循環に持っていけると思う。
- ・地域活動には持続可能性が必要である。個性的なリーダーが何年かすごいことを行って、その人が退任すると何もなくなったということがよくあるが、そのような地域活動はやはりしてはいけないと思う。

- ・地域活動の基準的なところは必ず押さえて、その後のプラスアルファは個性でやっていいと思うが、ベーシックな部分は個性に任せないようにしないと、長い目で見ると支持を受けないと思う。
- ・別の話で住民主体の活動拠点づくりの事例が５－②で挙げられていた。遊休資産を活用して活動の場所を作るという事例で非常に良いことだと思う。自身の地区の社協もそのような活動事例がある。
- ・地域が利用可能な市の遊休資産について情報に接する機会がない。事例に記載があるものは大きい建物で目についたのだと思う。
- ・例えば市の遊休資産で地域に開放できるようなものを、年度初めに区役所において、地域で活用しませんかと提示してほしい。遊休施設や道路の高架下のようなところでもいい、地域に見せていただきたい。
- ・その情報があれば、グランドゴルフ場としての活用や、簡易な建物が建てられるものは建てて借りるということも考えられるし、そういう情報を行政から積極的に提示していただきたい。
- ・財政の問題上、売りたいということもあると思うが、売れないようなものが残れば、地域で活用するために情報提供いただきたい。

（山川座長）

- ・予定は１５時半までになっているが、発言いただいてない方の発言をお願いして、延長したいと思う。どうしてもという方は御退室いただくという形にさせてほしい。

（越智委員）

- ・個人的なことを言うと、今日がちょうど誕生日で８１歳になる。自分でも驚いている。
- ・今日の朝、７時半から８時半まで、大州小学校・中学校に行く子どもたちの挨拶・見守り活動を行ってきた。
- ・小・中学校へは大州街道から一筋で、小学校だけで子どもが３３０人、教員などが１００人近く、中学校も生徒が６００人、先生方を入ると８００人から１，０００人、２校だけで先生と生徒で１，０００人以上が通行する。
- ・そういう子ども達を見ていると１年生から始まって、小・中学校だと９年間同じ道を通って通学する。
- ・私は活動を１０年以上やっているのですが、最初は小さい子が、その道を通ることがなくなる頃には、自分より背の高い子になり、高校に行って部活動をする。
- ・この子たちがあつという間に大きくなるというように、地域によってさまざまなポイントがあり、活動のポイントが違うというのを目の当たりにした。
- ・今日、様々なデータを見て、いろんな議論を聞いた。確かにそうであるが全てが同じではない。

- ・南区でも広島駅から中心部、黄金山や周辺地、広島港、似島まであり、同じ問題ばかりがあるわけではない。全てがいろいろ違っている。
- ・事例をみると、こういうやり方もあると感心するところもあるが、これをすべての地域に同じにするのではなく、各地域がおもしろそうだと感じることを実施することが必要である。
- ・できれば町内会や社協の役員が一緒になって他の参考になる地域を見学に行くような機会があると非常にいい勉強になるし、年齢や経験などがそれぞれ違う方が、受け取ったことに対して様々な意見を述べてくれると思う。
- ・例えば今ではドローンがあり、20年30年前に行った海外の道を上空から見るができる。そのような新しい感覚を持った者と年配の者が一緒に活動する必要がある。
- ・若い方たちと一緒に様々な経験をしていけば、今日のようにいろんな議論がでると思う。
- ・いろんな議論があれば、地域がすべて同じ事をするのではなく、他の地域の事例を少し自分の地域に取り入れようといった意見が出てくると思う。

(山川座長)

- ・知恵の交流の場になる。それは継続していくことが大切ではないか。

(打越委員)

- ・久保田委員と坊委員が言われたように、西区では学区が18地区あるが、社会福祉協議会がトップで各種団体が下部組織にある地区と、連合町内会がトップで社会福祉協議会が別にある地区がある。
- ・そのうち、町内会が集金したものを、各種団体、体協、子ども会、女性会など各種団体に助成金として渡す組織と、社会福祉協議会がトップになって社会福祉協議会が会費を徴収する組織がある。
- ・先ほども意見があったように、社会福祉協議会は合併の後にできたという経緯があり、社会福祉協議会へは行政から全部連絡がいくが、回覧板はすべて町内会会長へ依頼がある地域もある。
- ・共同募金、日赤の社資、公衛協など様々な寄付があり、町内会に入ってもデメリットばかりだという住民の声があるが、中には、安全・安心なまちを、町内会の役員等皆さんが地域の見守りをして安心・安全のために活動しているからだと認識されている方もいる。
- ・先ほど近藤委員から、マンションは町内会に入らないという意見があったが、西区も以前はそうだった。しかしここ20数年では、分譲マンションができる際には、施工業者等建築業者と町内会に入るという条件で建築をするという話し合いをしている。地区によっては社会福祉協議会会長、または単位町内会の会長が申し出て話し合いの上、

町内会に加盟するというシステムになっている。行政は、町内会はいくまで任意であるという位置付けを昔から変えていない。佐伯区のように連合町内会が力がある場合は、運営で非常に難しい面がある。

- ・安全・安心のまちづくりを全地区やるための会議、特に防災のことで会議をすればほとんどの方が集まってくれ、その他交通安全・防犯・福祉など欠かせないものについて会議を開催すれば、各種団体の役員は集まってくる。そのような場である程度の意見集約をする。
- ・イベントを行わないとコミュニティは難しい面がある。コロナ禍のため、今自身の地区でも青年団が2年活動をしていない。団体の稽古、太鼓団やブラスバンドの練習でもすぐに近所から苦情があるような時代であり、活動者が減ってきている。元に戻すような努力はしているが、そういった現状がある。
- ・担い手の話には直結しないかもしれないが、問題点、現状など様々なことを提示させてもらいたい。

(中村委員)

- ・地域団体がなくては、社会福祉協議会の本旨である地域福祉の推進もできない。先ほどから学区・地区社協と町内会のどちらかをといった話があるが、引き続き事業を丁寧の説明させていただきたいと思う。
- ・また先ほど意見が出た50万円の補助金についても、概要ができたので具体的に説明させていただきたい。
- ・先月、市社協と各区の区社協の合併調印ができたので、来年度以降区社協の事務負担が軽減されると考えている。軽減された部分を地域に傾注していきたいと思う。

(神谷委員)

- ・地域コミュニティの活性化について、皆さんの意見を聞きながら考えた。
- ・1番の目的・骨子は、例えば生活と生命を守るための地域コミュニティ活動という大元の理念を一つ持つことが大切である。中区と私が住んでいる安佐南区や安佐北区では地域柄が全く違うが、生活と生命、財産を守るということは全ての地域、日本全国の地域で大きな課題かと思う。
- ・その中で、一つはやはり子どもを守るという観点が重要ではないか。
- ・平成17年に安芸区矢野で児童殺傷事件があり、この事件をきっかけに子どもたちを守ろうという一つの目的で、見守り定点活動とか見回り活動が全市内に広がった。
- ・子どもたちを守る、町内会に入っている方、入っていない方も含め、それぞれ家庭があり、町内会に入っていない家庭でも、自分の子どもが安心して学校で勉強してほしい、クラブ活動してほしいという、親として子供の安心・安全、幸せを1番に考えることは同じであり、そういう子どもたちを守るため、そのための地域活動だと思う。

- ・もう一点は、皆さんお話しされている防災・減災だが、これも平成11年の6・29災害の時に市内で多くの方が亡くなられている。7年前の8・20では安佐北区・安佐南区を中心に77人の方が亡くなられたことは、皆さんまだ記憶に新しいと思う。
- ・ある方に聞くと、全国で危険箇所が69万箇所あるという中で、広島県が約1割の6万9千箇所あるとのことだった。
- ・町内会に入っていようが入ってまいが、自分たちの生活を守りたい、自分の子ども・家族を守りたいという気持ちは全員お持ちだと思う。
- ・その中で、あとは地域の特性を活かしながら、楽しいことをやりながら、地域を守るための地域コミュニティ活動、町内会活動であるということを大元にする、あるいは社協も含めて、そういった根本理念を基にいろんな地域の特性を生かした活動を展開できたらと思う。

(山川座長)

- ・終了時間を過ぎているので、次回の懇談会での論点提案にあわせ、本日の議論も整理させてもらえばと思う。